

(資 料)

芝草研究
J. Jpn. Soc.
Turfgrass Sci.
34 (2), 127~128

日本芝草学会 2005 年度秋季大会 ゴルフ場部会記録

ゴルフ場管理者が求める芝生研究

山 田 孝 雄

ゴルフ場部会長／東洋グリーン(株)

2006 年 3 月

芝草研究 第 34 卷 第 2 号 別刷

Journal of Japanese Society of Turfgrass Science

Vol. 34 No. 2 March 2006 (Reprint)

日本芝草学会 2005 年度秋季大会 ゴルフ場部会記録

ゴルフ場管理者が求める芝生研究

山 田 孝 雄

ゴルフ場部会長／東洋グリーン(株)

2005年より日本芝草学会では、ゴルフ場関係者(実務者)の交流の場として、またゴルフ場関係者と学術研究者との交流の場として、「ゴルフ場部会」を設置した。2005年春季大会では第1回の部会が開催され、「過去の学会での実務的芝草研究」と「今後のゴルフ場実務者向けの学会・部会のあり方」について、各地のグリーン研究所や大学、さらにゴルフ場管理者が講演を行った(芝草研究第34巻第1号に記録を掲載)。

春の部会は参加者120名を超える盛会となったが、地域的には関東近県に偏る傾向となり、今後の部会を全国の実務者の身近なものにする必要性が指摘された。

そこでゴルフ場部会では、春季大会に諸般の事情で参加できない会員および地域ゴルフ場関係実務者が、身近に参加できる機会を各地で作る方針を立て、その一環として2005年秋季大会でも部会を開催し、春季大会の研究発表の中から特にゴルフ場関係実務者に興味深い題材をより具体的に紹介し、あわせて地域のゴルフ場管理者による話題提供と意見交換を行うこととなった。

今回の秋季大会における部会は「ゴルフ場管理者が求める芝生研究」をテーマに、2005年11月18日午前10時から12時まで、大会会場である岐阜県可児市文化創造センター・レセプションホールで、110名余の参加のもとに行われた。

開会に当たって部会長が挨拶を行った後、岐阜県ゴルフ連盟の桃林秀年氏の司会により、4題の講演が行われた。

まず、宇都宮大学野生植物科学研究センターの小笠原勝氏による「メリケンカルカヤの生態生理と防除に関する基礎的研究」の講演が行われた。この講演では、同年の春季大会において発表された2題の研究発表を元に、メリケンカルカヤの生態と、刈込みの時期および刈高がメリケンカルカヤの草丈、分げつ数、穂数、種子形成などにどのような影響を与えるかが、詳細なデータをもとに紹介され、この雑草を制御する上で、芝の刈込みがどのような意味合いを持つかが考察された。さらに、芝に対する施肥がメリケンカルカヤの株数や枯死率にどのような影響を与えるかというデータをもとに、施肥と刈込みの組み合わせによるメリケンカルカヤの制御への可能性が論じられた。最後に除草剤に関する最新の未発表試験について言及があり、現場にとって有意義なデータが集

まりつつあること、詳細は翌年春に宇都宮大学で行われる日本芝草学会春季大会にて発表予定であることが紹介された。

つづいて、理研グリーン・グリーン研究所の早川敏広氏による、「春季の日本芝に発生する円形および輪形の生育不良症状について」の講演が行われた。この講演も春季大会での研究発表をもとに、ゴルフ場で春季に発生する日本芝の不明病害について、ゾイシアデイクラインやネクロティックリングスポット病などの最新の情報とも対照しながら、既知のものとは異なる不明病害が発生していることが、数多くの写真も用いて紹介された。その上でその病害発生部位から採取された芝草や菌糸の状態、分離された菌の特徴や再接種試験の結果、さらに発生部位に対する各種殺菌剤試験の結果などが豊富な写真とデータにより紹介され、既知の病害との違いや、殺菌剤による防除の可能性が論じられた。そして今後の検討課題として、病原菌の検討、発生地域の確認、診断方法や効果的防除法の確立が必要であることが挙げられた。

次に、関西グリーン研究所の一谷多喜郎氏による「ベントグリーンにおける病害の発生状況の解析」の講演が行われた。この講演では、春季大会における発表と芝草研究誌に掲載の実用記事(「現場における顕微鏡による芝草病害の迅速・簡易診断」芝草研究第32巻第2号)などの資料をもとに、現場での芝草病害の巡回調査と診断に関し、生理障害との判別法、病害調査におけるポイント、記録の取り方と集計、さらに詳細な検査を行う場合の方法や、電子メール等を用いた現場と研究者との情報のやり取りによる診断などの事例が、数多くの写真とともに紹介された。その上で病害管理における要点である発病の予測、正確な診断、適切な対処のためには、何よりもまず日常の巡回調査が欠かせないことが論じられた。

最後に、三好カントリー倶楽部の長谷川俊成氏より、「東海クラシックを終えて」と題した講演が行われた。この講演では、10月初旬に行われたトーナメントに向けての準備がどのように行われたかが、グリーンの間管理工程表やトーナメント期間中コース作業予定表などの資料をもとに、主催者側の下見の様子などもまじえて紹介された。特に、夏を越えたばかりのベントグリーンを、9月のクラブチャンピオン開催や通常営業なども行いながら、どのように大会までに仕上げ

たか、今後どのような取り組みを行っていききたいか、といった点については、参加者の興味も集まっていた。(この講演の詳細については、この号に掲載の長谷川氏の記事をご参照下さい)。

このように今回の秋季大会における部会では、それぞれの研究者が自己の研究成果について、春季大会の短い研究発表時間の中では語りつくせなかったような現場管理における意義や利用法を含め、時間をかけてまた具体的に論じ、現場管理者にとっても意義深いものとなった。また地域のゴルフ場管理者自身はその取り組みを紹介し、今後の課題を論ずるこ

とは、研究者にとっても新たな研究課題の足がかりを与えるものとなったと思う。また、参加者の中には非学会員の現場管理者の姿も多く見受けられ、今後の芝草学会の活性化のために示唆に富んだ会であったと言えよう。

今後もゴルフ場部会では、あらゆる機会を利用して、各地のゴルフ場関係実務者や研究者を結ぶ交流の場を提供することにより、学会活動の活性化を図って行きたい。

最後に、この部会の開催にあたりご尽力を頂いた、大会運営委員の各位および地域ゴルフ場関係各位に、改めて心より御礼申し上げる。